

シドニーで日豪観光セミナー開催 訪豪中の安倍首相が特別来賓として出席

JATAの田川博己会長は1月14日、シドニーで開催された日豪観光セミナーに参加し、オーストラリアを訪れる日本人旅行者数の増加に向けて、JATAとオーストラリア政府観光局の間で結ばれた覚書（MOU）などを踏まえ、日豪双方の関係者による緊密な連携を図る方針を明らかにしました。

今回の日豪観光セミナーは、安倍晋三首相によるオーストラリア訪問に合わせて開催されたもので、特別来賓として同セミナーに出席した同首相は、個人的な二セコとの関わりに言及した上で、「二



オーストラリア政府観光局のオサリバン局長（中央）を囲む田川 JATA 会長（右）と松山 JNTO 理事長

セコを世界的なブランドにしたのはオーストラリアである」と指摘。「様々な日本の良さを理解してもらい、日豪間の交流をさらに深めていきたい」と語っています。

また、日本政府観光局（JNTO）の松山良一理事長は、昨年1年間に日本を訪れたオーストラリア人旅行者が約45万人に達し、記録を更新したことを紹介。「オーストラリアは、日本文化や和食、旅館滞在といった日本の良さをアピールできる市場であり、日本とは季節が反対となるため、年間を通じたプロモーションが可能だ」と強調し、2019年に日本で開催されるラグビーのワールドカップを通じて、オーストラリアから国内各



安倍首相「日豪間の交流をさらに深めたい」

地への訪日旅行需要を拡大することに意欲を示しました。

一方、オーストラリア政府観光局のジョン・オサリバン局長は、昨年1年間にオーストラリアを訪れた日本人旅行者数は40万人を超える見込みであり、「伸び率では2番目という重要なマーケットだ」と指摘。「カンタス航空グループが日豪間における輸送力を3倍に拡大したほか、全日空による羽田／オーストラリア線も訪豪需要の増加に貢献している」という見方を明らかにしています。

田川 JATA 会長も、2016年に前年比5.6%増の1711万人となった日本人渡航者数のうち、オーストラリアへの渡航者数は前年比24%増を記録して、伸び率では最大となる見通しであることに言及。「オーストラリアの魅力は自然だけでなく、都市部にも存在している。レジャー、ビジネス、MICE、教育旅行など、それぞれの分野で企画力、提案力、斡旋力、添乗力という旅行会社の真価を発揮して、MOUで設定されている2020年の訪豪日本人旅行者数70万人を達成したい」と決意を表明しました。

2017年は「持続可能な観光国際年」 「社会の枠組みづくり」に観光で貢献

2017年は「持続可能な観光国際年」です。2015年9月にニューヨークで開催された第70回国連総会では、2017年を「持続可能な観光国際年」と制定。1945年の国連設立以来、観光に関する国際年は、これが3回目となります。

国連総会で全加盟国が共有した「持続可能な開発課題の解決」や「持続可能な開発目標」の2030年までの達成に貢献できるよう、地球に住む人々が一緒に観光に関わる政策や商慣習、旅行者・消費者の行動を、持続可能な新しい観光モデルとその考え方にシフトしていくため取り組みを始めます。

「持続可能な観光国際年」は、次の5つの分野に重点を置いて、観光の役割を世界に発信していきます。

◎包括的・持続的な経済発展：誰もが参加可能で地域全体への経済的裨益（ひえき）が持続するようなツーリズム
◎社会的な関わり、雇用拡大や貧困の撲滅：雇用創出や貧困削減に貢献するツーリズム

◎資源の有効活用、環境保護や気候変動：環境や気候変動に配慮した資源保全・保護を踏まえたツーリズム

◎文化的価値、多様性、遺産：伝統や固有性と多様性の両立を認め合う文化価値を描くツーリズム

◎相互理解、平和、安全：平和や安全を支える相互理解に貢献するツーリズム

世界観光機関（UNWTO）では、各国政府、国連関係機関、国際機関や地域機関、JATAやPATAといった観光関連組織と緊密に連携しながら、「持続可能な社会の枠組みづくり」に向け、観光を通じて貢献できるように取り組みを進めます。（記事提供…国連世界観光機関 シニアオフィサー熊田順一氏）